

講義名	経済学入門【人間社会学部】			
担当教員	森脇 丈子			
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 4時限	授業形態	講義	
履修開始年次	1年生	単位数	2	備考

主題と概要

わたしたちの生活は経済と深く結びついています。しかしそれらがどのように結びついているのかについては具体的に理解していないことが多いのも事実です。例えば、私たちが購入する商品には、国内で生産されたもの、海外生産で輸入されたもの、海外で生産された部品を使って仕上げられて日本国内で消費されるもの、あるいは、海外で消費されるものなどがあります。また、商品の生産や販売や消費は常に不安定的に行われるわけではありません。もし生産や販売や消費が安定的に行われない場合があるとすれば、なぜそのようなになっているのでしょうか。さらに、人工知能(AI)の発展は、私たちの雇用や生活をどのように変化させていくと考えられているのでしょうか。この講義では、経済の動きとそれに影響を与える諸要因に関連する基礎的な知識を身につけていきます。

経済ニュースや新聞記事が理解できるようになるため、経済学の基礎的な用語や社会の仕組みを学びましょう。

到達目標

1. 経済の基礎的な用語を理解できるようになる。
2. 経済の基礎的な仕組みを理解できるようになる。
3. 日常的な話題を扱った経済ニュースの内容を理解できるようになる。
4. 国際関係をふまえた日本経済の動きについて理解し、自分の考えを持てるようになる。

提出課題

授業の後半で、課題を出します。レスポンドで回答してください。1回の授業で3点の配点、14回分実施します。課題の合計点は、42点です。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

授業開始時に、前回提出済みの「課題」について、コメントをします。

評価の基準

1. 課題 ... 点数 = 42点 (3点/回 × 14回)
2. 最終試験 ... 点数 = 58点

「課題」(42点)と「最終試験(58点)」の合計点で、評価をします。

合計60点以上が、合格です。59点以下は、不合格です。

履修にあたっての注意・助言他

日頃から、新聞・ニュース・雑誌等で社会の出来事、企業活動や消費者行動などに関する情報を収集しておいてください。

第1回目の授業に必ず出席し、授業の進め方、課題の提出方法、評価基準についてしっかりと理解したうえで、受講してください。

関連科目として、次の講義の受講を勧めます。
 【生活構造論、消費文化論、消費者問題論、NPO論、アミューズメント事業論】

教科書					
・「使用しない」。					

プリント資料及び参考文献

授業で使用するプリントは、教室で配布します。

参考文献
 ・吉川 剛(2018)『日本の分断 切り離される非大卒若者たち』、光文社新書
 ・内田 樹、藤山 浩、手塚 豊、平川 克美(2018)『「農業を株式会社化する」という無理 これからの農業論』、家の光協会
 ・梶原 公毅(2015)『なんに、そうなのかい 経済入門』、日本経済新聞出版社、1,500円＋税
 ・ダン、アリエリー(2013)『予想通りに不合理 行動経済学が明かす「あなたを迷わす」』、早川書房
 ・大内 伸哉(2019)『会社員が消える』、文藝春秋

授業計画

1. ガイダンス、経済学は何を対象としているか
2. 日本の人口構造(1) 人口構造の変化、都市への人口集中、少子高齢化
3. 日本の人口構造(2) 世帯構造、孤独死、世代間の支え合い
4. 家計消費と貯蓄、平均所得、金融資産の平均額、所得の格差
5. 格差問題、貧困率、子どもの貧困、格差
6. 雇用と失業、労働力人口、失業率、労働力不足、女性の就業率、増加する非正規雇用
7. ロボット、AI、ロボットの活用と共生、AIと雇用
8. 企業の学、事務所の状況、国際化する日本企業、日本の経営の特徴
9. 貿易、貿易収支の推移、輸出入品目の変化、主な貿易相手国、日本の国際収支
10. エネルギー問題、日本のエネルギー事情、エネルギー自給率、電力需要
11. 食料問題、国内の食料消費、食料自給率、農業、食糧安全保障
12. 物価、円高・円安
13. 地価、需要と供給
14. コロナ時代の雇用と生活
15. 最終試験

戦後の日本経済(復興期、高度経済成長期)については、「生活構造論」の授業で扱います。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

○ ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業終了時に、次週のテーマとポイントを紹介します。テーマに関連する基礎的な語句や情報を調べる等の予習を、授業開始時まで済ませておいてください（作業時間：2時間程度）。

その日の授業で扱った内容は、次の授業の理解の基礎になります。また、課題で合格点をとるために必要な知識となります。授業で使ったプリントを用いて、基礎的な内容の復習をしてください。また、配布した新聞記事などを利用して、具体的な事例で授業内容をより深く理解できるように努め、ノートに要点をまとめておいてください。（作業時間：2時間程度）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

社会構造や社会制度といった社会の仕組みや働き、地域社会における人びとの生活や文化などについて専門的な知識を有し、さまざまなことからの社会における役割や意義を理解し、考えることができる。社会の問題や人びとの考え方を捉えることができ、社会貢献・産学連携、インターンシップなどで現実社会との視点を持ち、「社会人」として活躍できる基礎的な能力を身につけ、より良い社会を実現するための新しい社会、文化を創造することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

授業中に多くの質問を出します。レスポンドを使って自分の意見を述べてください。

実務経験の有無及び活用

備考

新型コロナウイルス対応のため、授業形態が途中で変わることがあります。オンライン型の授業のみでの開講になった場合には、動画視聴で授業に参加してもらいます。その際、授業中の議論はできませんが、質問はレスポンドで受け付け、次回の授業開始時にコメントします。

第1回目の授業に必ず出席してください。
 授業ではメモをどって、理解を深めてください(スマホによるPTT等の撮影は禁止します)。
 授業中の私語や教室への勝手な出入りを禁止します。スマホは教員の指示がある場合に使用してください。授業態度の悪い人には、退室を求めることがあります。

- 769 -